

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	3670101819		
法人名	医療法人 慈成会		
事業所名	グループホームほほえみ		
所在地	徳島県徳島市津田西町1丁目9-5		
自己評価作成日	平成23年7月31日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=36">http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=36</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	平成23年9月25日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

利用者一人ひとりが、家族や地域の方との今までの生活や繋がりを継続し維持できるよう支援している。利用者一人ひとりの得意な分野で、負担感を感じない程度の役割を担っていただき、毎日を生き生きと楽しく笑顔で過ごしてもらえるよう支援している。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

理念に「ゆつくり・一緒に・楽しみながら」を掲げ、全職員で利用者一人ひとりを支援している。事業所は、山の近くに位置していることもあり、季節に応じた色彩の移り変わりを感じることができる。利用者は、穏やかな表情で来訪者を出迎えており、温かい雰囲気がある。近隣の協力医療機関や介護サービス事業所等に通っている友人の来訪が多くあり、利用者や職員とともに楽しい時間を過ごしている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆつたりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ほほえみ 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	住み慣れた地域のなかで、安らぎと生きがいを保てる環境づくりを目指すことを理念に掲げている。理念を事業所内に掲示し、いつでも理念に立ち返れるようにしている。	事業所で作成した理念を掲示している。また、ときには利用者と職員がともに唱和して共有することもある。日ごろから、理念を意識して業務に反映することができるよう心がけている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日ごろから、散歩や買い物等に出かけている。また、地域の人たちと挨拶や会話を交わし、近隣住民との交流に取り組んでいる。	日ごろから、散歩や買い物に出かけている。地域の方々と挨拶や会話を楽しんでおり、つねに繋がりをもって生活することができるよう支援している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	要望があれば中学生の体験学習の受け入れ等を行い、認知症の理解を促し、支援の方法を伝達している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の状況やヒヤリハット、行事等の報告などを行っている。また委員の方の質問や意見などは、サービスの質の向上に繋げるため職員間で回覧している。	2か月に1回、運営推進会議を開催している。事業所の行事やヒヤリハット事例の報告等を行っており、参加者から意見を出してもらっている。会議内容は記録し、経営者も加わって全職員で話しあう機会を設けており、今後、サービスの質の向上に活かすべく取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	毎月、利用者の報告等を直接窓口を持参し、担当者と言葉を交わすようにしている。	月1回、市担当者を訪問し報告等を行っている。担当者と話しあいを重ね、協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は施錠しているが、利用者は中から自由に開けることができる。	事故防止の観点から玄関を施錠しているが、裏口はつねに開錠しており、開放感のある暮らしを支援している。また、職員は、身体拘束の内容や弊害について理解・認識している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は、不適切なケアを見過ごすことがないように日ごろから話しあい、注意しあえる環境づくりをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ほほえみ 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、日常生活自立支援事業や成年後見制度を利用している方がいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分に説明を行い、利用者や家族に納得していただいている。利用時や退居時にも不安や疑問等に答えるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日ごろから、利用者や家族の方が職員に何でも言えるような雰囲気づくりを心がけ傾聴している。出された意見等は運営に反映させるようにしている。	日ごろから、職員は、利用者や家族が意見・相談等を言いやすい雰囲気づくりを心がけている。出された意見は、各種会議等で検討し運営面に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝のミーティングで意見や提案を聞いている。良いと思えることはすぐに実行している。	毎朝のミーティング時に、職員間で意見や提案を出しあって検討し、運営面に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	やりがいを持って働けるよう職員の努力や実績を評価している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全職員が、県の実施する研修に参加できるように勤務を調整している。また、研修の希望があれば受講できるように協力している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に加入している。会議や研修、勉強会等に参加し、情報や意見交換等を行ってサービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ほほえみ 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期の段階で、本人の不安がないようにコミュニケーションの時間を多く設け、信頼関係を築くようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族と信頼関係が築けるように、不安や要望等を言いやすい環境づくりを心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを導入する段階で、本人と家族がより良いサービスを選択できるように、他のサービスの情報も提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の得意な分野で役割を担ってもらい、職員とともに家族のように協力しあって生活しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日ごろの利用者の暮らしを伝えて情報を共有している。家族の思いを理解し、ともに支えあう関係を築くよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者は地元の方が多く、これまでの関係が途切れないよう支援している。知人や友人と気軽に行き来している。	利用者の友人や知人が気軽に立ち寄ってくれている。また、協力医療機関の行事に参加し、地域の方と交流を図っている。事業所は、利用者一人ひとりの知人や友人との相互交流を大切に馴染みの関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が、体操やゲーム等をおして関わっていけるよう声かけ等に努めている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ほほえみ 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期の入院により、やむを得ず退居に至った利用者をお見舞いに伺っている。また、家族からの相談や支援に努めている。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日ごろの関わりや家族との会話のなかで、思いや希望等を把握するようにしている。	利用者一人ひとりがその人らしい暮らしができるよう、家族から情報を得て思いや意向等を把握するよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本人や家族から情報収集を行うとともに、ケアマネジャーからの情報等により把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日ごろから、変化を見逃さないよう心身状態や有する力等の把握に努めて記録し、職員間で共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者や家族の希望を聞き、関係者の意見も含めて職員間で話しあっている。本人の希望する生活ができるように介護計画を作成している。	本人や家族、関係者、職員等の意向や気づき等を介護計画書に反映している。定期的にモニタリングを行っている。また、状態変化時には、そのつど見直しを行って、現状に応じた介護計画書の作成に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日ごろの様子や気づきなどを個別ファイルに記録している。毎朝のミーティング時に報告し、情報を共有して介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況や要望に応じて必要な支援には柔軟に対応し、利用者一人ひとりが満足感を得られるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ほほえみ 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	以前から利用していた地域の商店や理・美容院等を引き続き利用し、馴染みの関係を断ち切ることなく安心して生活できるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的に、利用者や家族の希望するかかりつけ医の受診を支援している。体調不良時には随時の受診を支援している。	利用者の多くが関係医療機関の医師を主治医としているが、本人や家族の希望に応じて馴染みのかかりつけ医の受診ができるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療機関の看護職員は、利用者と馴染みの関係を構築しており、日ごろの状態や持病等を把握している。緊急時の協力体制を構築している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の入院中は、なるべく面会に行き病院関係者と情報交換を行い、早期退院できるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に、家族と話しあって重度化した場合の希望を聞いている。医療行為が必要な場合には、利用者や家族、主治医等と話しあって対応している。	入居時に家族と話しあい、重度化した場合の希望や要望等を聞いている。職員間で情報を共有し、チームで対応していくよう体制を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し緊急時に対応している。外部の研修にも参加している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、防災訓練を行っている。火災の通報装置やスプリンクラーも整備している。	年2回、併設事業所と合同で避難訓練を実施している。また、地域との協力体制等についても検討しており、事業所外に点在する避難経路上の危険な場所等を把握している。火災時の通報装置やスプリンクラー等を整備している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ほほえみ 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりの誇りやプライバシーを傷つけないよう言葉遣い等に注意し支援している。	職員は、利用者一人ひとりの誇りやプライバシーを傷つけないよう留意しており、特に言葉づかいや接し方に気をつけて支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の様々な場面で、利用者が自分で意思決定できるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの体調に配慮し希望にそえるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人自身が好みにあった衣類を選んで着用している。理・美容も本人の希望により馴染みの店へ出かけており、職員は送迎の支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼・夕食の調理はしていないが、配膳や下膳などできることはともに行っている。月1回の給食会議や年2回の嗜好調査等で希望を取り入れてもらっている。	昼・夕食は母体法人で調理したものを運んでいるが、朝食は職員がつくっている。利用者は、一人ひとりの力量に応じて、テーブルの準備や盛りつけ、配膳、下膳等の役割を担っている。月1回の給食会議の際、利用者一人ひとりの嗜好や献立、調理方法等について検討し、メニューに取り入れている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェック表に食事・水分摂取量を記録し、毎日の摂取量を把握している。支援の必要な人は、申し送りや主治医に報告するなどしている。利用者一人ひとりの状態に応じて、形態やとろみ剤を使用するなどの工夫を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後や就寝前、利用者の能力に応じて声かけや一部介助を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ほほえみ 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェック表を用いて、利用者一人ひとりの排泄のパターンやサインをキャッチし、トイレ誘導を行うなど排泄の自立にむけて支援している。	日ごろの関わりや排泄状況の記録等により、利用者一人ひとりの排泄パターンやサインを把握し、声かけや誘導等の支援に繋げている。排泄の自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の弊害を理解している。利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、日中の活動や水分補給に配慮している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	なるべく利用者の希望にあわせて入浴できるようにしている。入浴を拒まれたり、間隔が空いた方には声かけを工夫し、少しでも多く入浴できるよう支援している。	利用者の希望に応じ、毎日入浴できるよう支援している。入浴を拒む方には、時間帯や職員を変えるなどの工夫をし、一人でも多くの利用者が入浴できるよう留意している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者一人ひとりの生活リズムを尊重し、夜間に安眠できるよう支援している。また、日中の生活が心地良いものになるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者が服用している薬の内容や副作用等が分かるようにファイルを作成し、いつでも確認できるようにしている。チェック表を利用して飲み忘れ等を防止している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の能力に応じて、得意な分野で負担の無い程度の役割を担ってもらっている。生き生きとした表情が見られるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的な外出が希望にそって行えるよう支援している。希望の少ない利用者にも、声かけをして外出の機会を増やすよう努めている。	利用者一人ひとりの要望に応じて、近隣の海岸や山道へ散歩に出かけ季節を感じたり、コンビニなどへ買い物に行ったりしている。希望等の表出が困難な利用者にも声かけを行い、外出の機会を増やすよう取り組んでいる。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ほほえみ 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	少額のお金を持つことで安心される方や日ごろの買い物を楽しまれる方など、利用者一人ひとりの希望や能力に応じて支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の子機を利用し、居室でゆっくり話ができるように支援している。手紙のやりとりなども利用者一人ひとりに対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースは、安全と清潔を心がけ、居心地良く過ごしてもらえるように工夫している。	事業所内のホールは広く、採光にも配慮した空間となっている。ゆったりとくつろぐことのできるテーブルを2か所に設置しており、食事や作業時等に利用している。壁面には、利用者の手作りの作品や行事の写真を掲示している。また、事業所内に季節の花を活けており、家庭的な雰囲気の感じられる居心地のよい空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者一人ひとりの気に入った居場所があり、思い思いの時間を過ごせるようになっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物や好みの物を持って来ていただくよう家族にお願いして、居室が居心地の良い場所になるようにしている。	利用者一人ひとりにとって馴染みのある好みの物品を持ち込んでいる。家族の写真や自作の俳句、和歌等を飾っている利用者もいる。利用者一人ひとりにとって、安心して楽しく過ごせるような居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者一人ひとりの能力にあわせて安全に移動できるよう、ベッドの高さを変えたり足元に滑り止めマットを使用したりしている。居室が分からない方には名札や写真を貼って対応している。		